

105-195

問題文

28歳男性。半年前に転勤で築10年のマンションに転居してきた。仕事が忙しく部屋の掃除が滞っていたが、元気に過ごしてきた。しかし、3週間ほど前からくしゃみ、鼻のかゆみ、鼻汁・鼻漏を認め、最近は鼻づまりや目のかゆみも感じている。

頭痛や発熱、喉の痛みはなく、鼻づまりは口呼吸をするほどではなかったが、くしゃみは、日に7～8回あることから内科を受診したところ、次の薬剤が処方された。

(処方)

エビナスチン塩酸塩錠 10 mg 1回1錠 (1日1錠)
1日1回 朝食後 14日分
フルチカゾンプロピオン酸エステル点鼻液 50 μ g 56噴霧用 1本
1回各鼻腔に1噴霧 1日2回 朝夕 噴霧

本症例に関する病態及び薬物療法に関する記述のうち、正しいのはどれか。2つ選べ。

1. 鼻漏は膿性鼻漏に移行することが多い。
2. くしゃみ、鼻汁、鼻閉はI型アレルギー反応による。
3. くしゃみの症状がひどくなる場合は、セラトロダスト錠を追加する。
4. 鼻づまりの症状がひどくなる場合は、アドレナリン α 受容体遮断作用を有する点鼻薬を追加する。
5. エビナスチン塩酸塩錠のかわりにフェキソフェナジン塩酸塩錠を使用することも可能である。

解答

2, 5

解説

ハウスダストアレルギーが疑われる症例です。

選択肢 1 ですが

アレルギーでは、水様性鼻漏が多いです。いわゆるサラサラした透明の鼻水です。よって、選択肢 1 は誤りです。

選択肢 2 は妥当な記述です。

選択肢 3 ですが

セラトロダストは気管支喘息治療薬です。よって、選択肢 3 は誤りです。

選択肢 4 ですが

α 「刺激」です。遮断ではありません。よって、選択肢 4 は誤りです。

選択肢 5 は妥当な記述です。

以上より、正解は 2,5 です。